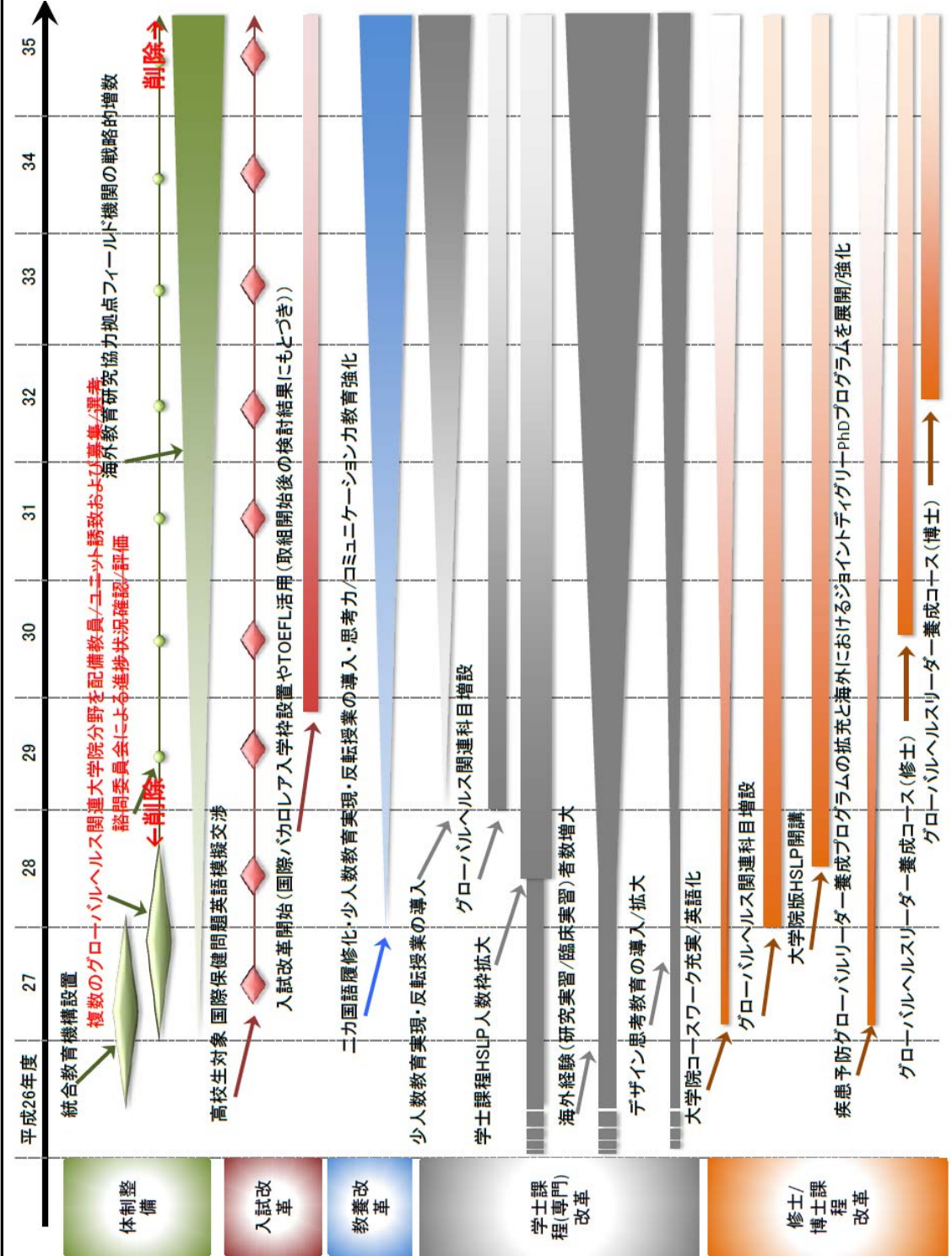
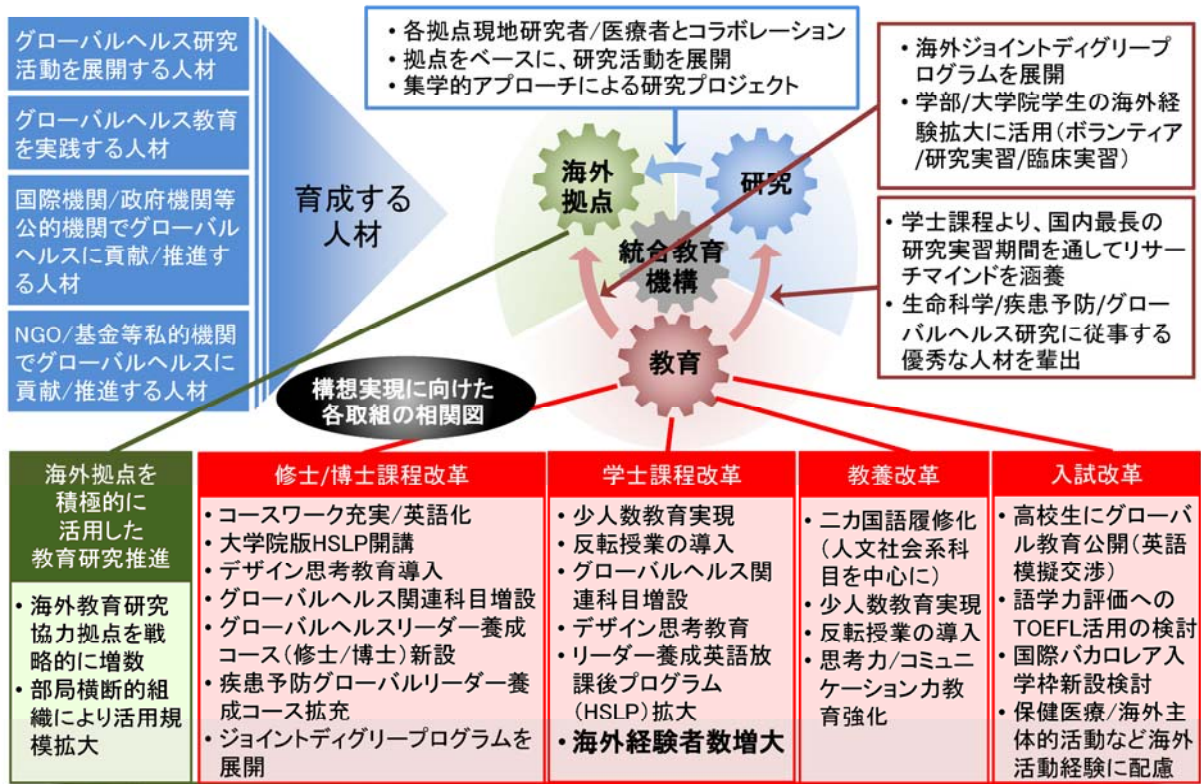


② 工程表【1ページ】

※全体計画を把握するため、10年間の工程表を作成してください。



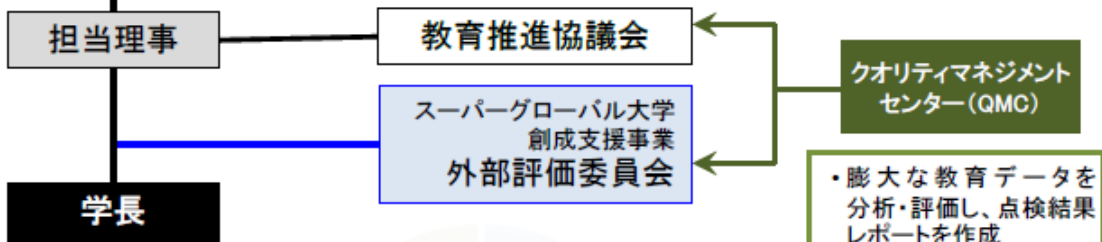
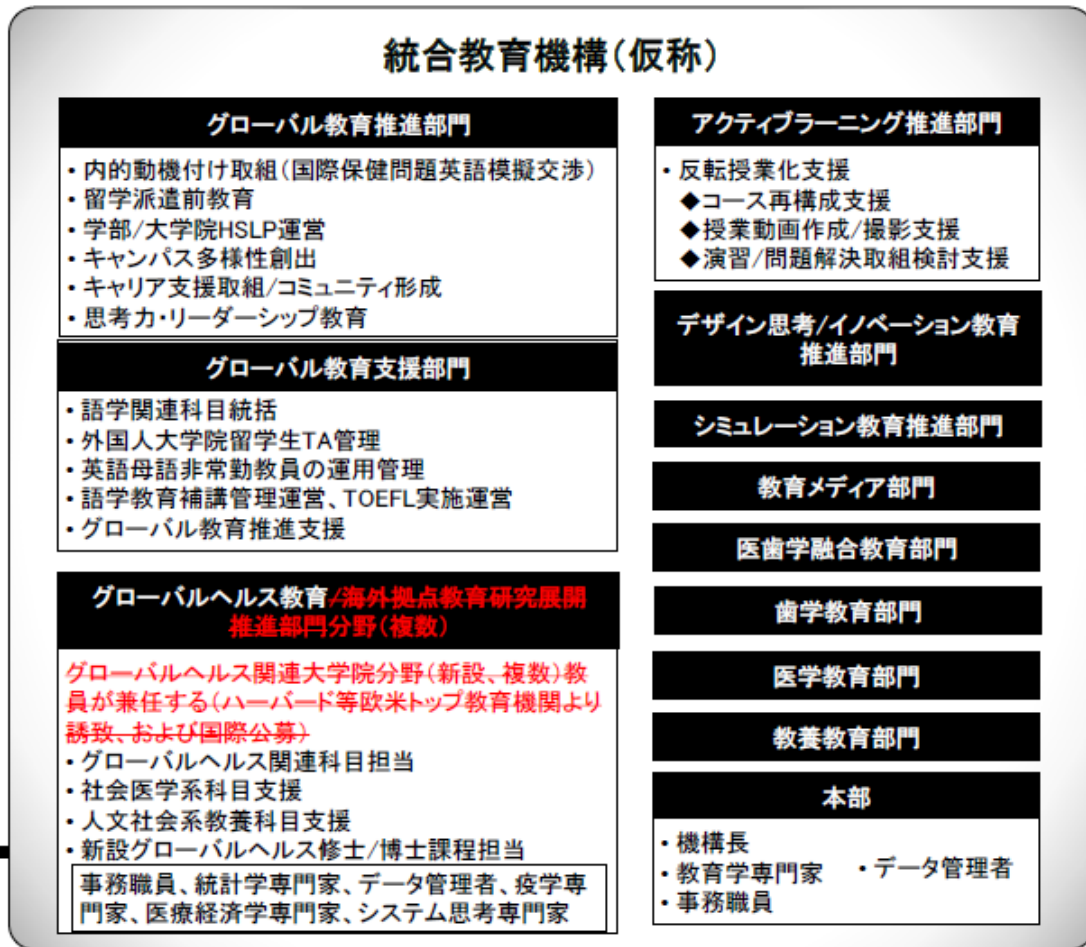
⑤ 共通観点 3 (大学独自の成果指標と達成目標) 概念図【1ページ】



学士課程卒業生に占める海外経験者の割合	リーダー養成英語放課後プログラム(HSLP)履修者数	全大学院生に占める外国人留学生の割合	(新設)グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士)履修生数																																																							
<p>グローバルヘルスに貢献する人材育成/研究展開推進の最も鍵となるのが、早期(学士課程)におけるキャリアビジョン構築/ロールモデル獲得/国際的視野視点獲得とそれにもとづく内的動機付けであり、そのために早期(学士課程)の海外経験が最も効果的である。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25 (%)</th> <th>H28 (%)</th> <th>H31 (%)</th> <th>H35 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医</td> <td>33.3</td> <td>36</td> <td>42</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>歯</td> <td>11.7</td> <td>18</td> <td>33</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>保衛</td> <td>6.7</td> <td>10</td> <td>16</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>		H25 (%)	H28 (%)	H31 (%)	H35 (%)	医	33.3	36	42	50	歯	11.7	18	33	40	保衛	6.7	10	16	25	<p>少人数教育環境、完全英語履修、ケースメソッドを用いた問題解決型学習で、医学/周辺知識統合応用力とともに思考力/リーダーシップスキル等を磨く。選抜にて全学科から志の高い学生が集い、互いに切磋琢磨する。将来医学/医療の様々な分野/領域/組織でリーダーとして活躍/牽引する人材育成の鍵となるプログラムである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25 (人)</th> <th>H28 (人)</th> <th>H31 (人)</th> <th>H35 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>20</td> <td>126</td> <td>246</td> <td>258</td> </tr> </tbody> </table>		H25 (人)	H28 (人)	H31 (人)	H35 (人)		20	126	246	258	<p>アジアにおけるグローバルヘルス研究拠点・推進人材育成拠点としての地位を確立することをゴールの一つとしており、アジア諸国からの大学院留学生を育成することが重要。修士/博士課程改革と教育の国際標準化、そして海外教育研究展開拠点を通して、優秀な入学者を獲得する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25 (%)</th> <th>H28 (%)</th> <th>H31 (%)</th> <th>H35 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>13.3</td> <td>15</td> <td>19</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>		H25 (%)	H28 (%)	H31 (%)	H35 (%)		13.3	15	19	25	<p>アジア諸国から優秀な学生を募り、将来のグローバルヘルス領域のリーダーおよび研究者を養成する。卒業生は、WHO等の国際機関、各国医療行政部門、NGO/NPO、研究機関、フィールド機関、基金など、グローバルヘルス推進の中心部門に就職/活躍し、本学とのパートナーシップを強固にし相互発展に寄与する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25 (人)</th> <th>H28 (人)</th> <th>H31 (人)</th> <th>H35 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>-</td> <td>-</td> <td>10</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table>		H25 (人)	H28 (人)	H31 (人)	H35 (人)		-	-	10	20				20	38
	H25 (%)	H28 (%)	H31 (%)	H35 (%)																																																						
医	33.3	36	42	50																																																						
歯	11.7	18	33	40																																																						
保衛	6.7	10	16	25																																																						
	H25 (人)	H28 (人)	H31 (人)	H35 (人)																																																						
	20	126	246	258																																																						
	H25 (%)	H28 (%)	H31 (%)	H35 (%)																																																						
	13.3	15	19	25																																																						
	H25 (人)	H28 (人)	H31 (人)	H35 (人)																																																						
	-	-	10	20																																																						
			20	38																																																						

大学独自の成果指標と達成目標

⑤ 共通観点 4（構想実現のための体制構築）概念図【1 ページ】



構想実現に向けた各取組の相関図

共通観点 2 共通の成果指標と達成目標

- 前提条件となる事項（大学改革、国際化等）に関し、「スーパーグローバル大学」に相応しい実績を有し、かつ目標設定がなされているか。
※各指標の定義は記入要領によること。

1. 国際化関連 (1) 多様性

① 教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合【1 ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成 2 5 年度	平成 2 8 年度	平成 3 1 年度	平成 3 5 年度
外国人教員等 (A)	256 人	269 人	278 人	286 292 人
うち外国籍教員	11 人	24 人	33 17 人	41 18 人
うち外国の大学で学位を取得した日本人教員	15 人	15 人	15 17 人	15 18 人
うち外国で通算 1 年以上 3 年未満の教育研究歴のある日本人教員	156 人	156 人	156 166 人	156 176 人
うち外国で通算 3 年以上の教育研究歴のある日本人教員	74 人	74 人	74 78 人	74 80 人
全専任教員数 (B)	829 人	829 人	829 人	829 人
割合 (A/B)	30.9 %	32.4 %	33.5 %	34.5 35.2 %

【これまでの取組】

- 2008～2010 年度の概算事業「医歯学系大学における教養教育のモデル形成」において、生物学・化学・数学の講義を英語で行う科目 (Science English Course) を自由選択科目として開設し、担当の特任助教として外国籍教員 2 名を雇用し実施した。
 - 2004～2009 年のうち合計 24 ヶ月間、本学医歯学教育システム研究センターにおいて、米国医師資格、および米国での豊富な教育経験を持つ米国人を客員教授として雇用し、専門とする消化器病学分野や、臨床推論の教育にあたった。また全学教員を対象とした教員研修も行った。
 - 医学部保健衛生学科において、2008 年度にスウェーデンと米国の両方の国籍をもつ外国人教員を特任准教授として雇用し、教育の充実を図った。
- 最近では、本学の教育研究取組のグローバル展開により、多くの分野・センターなどの教員公募に際して、優秀な教員を広く国際公募しており、教育研究者における多様性の創出が自ずと進められつつある。さらに、本学の海外研究教育拠点やチリ大学・チュラロンコン大学との Joint Degree プログラムなどを通して海外における教育研究経験を積む教員も増加しつつある。
- 2009 年度および 2010 年度に行った教養部の外国語系英語分野の教員公募 (英語を母語とする教員の公募) では J-REC と教養部 Website の英語ページ及び日本語ページに公開し国際公募した。
 - 平成 24 年度に採択された「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」において、国際公募により、欧米にて学位を取得した教員を 3 名採用している。

【本構想における取組】

本構想では、以下において、外国人または外国の大学で学位を取得した日本人研究者が多く必要とされるため、国際公募を行い、国籍を問わず高い教育力を有する教員を採用する。

- (学士課程) 教養課程科目 (人文社会系科目を中心) の二カ国語履修化
- (学士/修士/博士課程) 語学力/思考力/プレゼンテーション力強化のための補講規模拡大
- (学士/修士/博士課程) コースワーク英語化、グローバルヘルス関連科目増設、リーダー養成英語放課後プログラム (HSLP) の拡大/大学院版開講
- (修士/博士課程) グローバルヘルスリーダー養成コースの新設

また、外国人研究員 (Postdoctoral Fellowship for foreign student (仮称)) について、国際共同研究推進のため博士号を取得した優秀な留学生を、卒業後も一定期間 (6 か月～1 年) 本学の特任教員等で採用する。なお、在日中は宿舍の借り上げを可能とする。

これらを踏まえ、上記のように目標を設定した。

1. 国際化関連 (2) 流動性

① 日本人学生に占める留学経験者の割合【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
単位取得を伴う海外留学経験者数(A)	154 人	173 人	253 212 人	273 241 人
うち学部(B)	131 人	150 人	230 189 人	250 218 人
うち大学院(C)	23 人	23 人	23 人	23 人
全学生数(D)	2,903 人	2,770 人	2,639 人	2,549 人
うち学部(E)	1,448 人	1,487 人	1,471 人	1,403 人
うち大学院(F)	1,455 人	1,283 人	1,168 人	1,146 人
割合(A/D)	5.3 %	6.2 %	9.6 8.0 %	10.7 9.5 %
割合(B/E)	9.0 %	10.1 %	15.6 12.8 %	17.8 15.5 %
割合(C/F)	1.6 %	1.8 %	2.0 %	2.0 %
3ヶ月以上研究派遣された大学院生数(G)	8 人	8 人	8 人	8 人
割合(G/F)	0.5 %	0.6 %	0.7 %	0.7 %

【これまでの取組】

医療系の学士課程カリキュラムは、そのほとんどが必修科目で埋められており、従って他大学で見られるような、長期間の海外留学は、休学しない限り極めて難しいという現状がある。本学では、医療系教育カリキュラムにおける海外留学形態を模索し、よりきめ細かな指導を受けられ、将来のキャリアに意義の大きい形として、研究実習および臨床実習という留学形態を考案し、それを可能とするカリキュラム改革を行った。具体的には、医学科第4学年の自由選択学習科目において、ここ数年は24名程度が海外研究機関にて研究実習を行い、単位認定をしている（授業料相殺/同数学生交換プログラムによるインペリアルカレッジロンドンへの研究留学生は過去10年で37名）。そして、海外留学を経験した上級生による下級生への報告会などを積極的に開催してきた。さらに第6学年の臨床実習においては、毎年8~10名程度がハーバード医学校における臨床実習に参加しており、単位認定をしている（過去10年で74名）。そして、平成26年より、下記学科/専攻において、選択科目として単位認定を伴う海外留学機会を提供開始した。

(歯学科) 科目：デンタルエクスターンシップ

(保健衛生学科看護学専攻) 第2~4学年、科目：国際保健福祉、期間：通年

(保健衛生学科検査学専攻) 第2~4学年、科目：短期海外研修、期間：通年

さらに、①海外留学を含めたグローバル教育への内的動機付け取組（英語模擬交渉）、②海外留学経験者による報告会/セミナーや下級生とのネットワーク形成機会創出、③活躍中のグローバルリーダーとの情報交換/交流機会創出（「Find-Your-Role-Model session」、月1回開催）、④派遣前教育強化などを行っている。そして、学生交換を伴う海外提携校の増数（ソウル国立大学、フロリダ国際大学、オーストラリア国立大学、台湾医科大学）を積極的に図った。

【本構想における取組】

本学の入学生には海外留学希望者が多い（医学部医学科では平成26年度入学生の86%が希望）。本取組においては、上記①から④の取組を継続し、海外教育研究協力拠点増数とともに学生交換を伴う海外提携校の増数を更に進め、提携校他への単位認定を伴う留学を中心に、海外教育研究協力拠点でのボランティア、同拠点での研究実習などを含めた、海外経験者数の増大を図り、希望する学生に可能な限り海外経験を積ませる。そして学生の金銭的支援のために、学内外奨学金/基金を積極的に利用する他、入学時からの費用積み立てなども検討する。

1. 国際化関連 (2) 流動性

② 大学間協定に基づく交流数【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
大学間協定に基づく派遣日本人学生数(A)	77 人	89 人	133 89 人	160 89 人
うち単位取得を伴う学部生数	54 人	66 人	90 66 人	110 66 人
うち単位取得を伴わない学部生数	0 人	0 人	20 0 人	27 0 人
うち単位取得を伴う大学院生数	23 人	23 人	23 人	23 人
うち単位取得を伴わない大学院生数	0 人	0 人	0 人	0 人
全学生数(B)	3,134 人	2,998 人	2,889 人	2,821 人
割合(A/B)	2.5 %	3.0 %	4.6 3.1 %	5.7 3.2 %
大学間協定に基づく受入外国人留学生数(C)	41 人	41 人	41 人	41 人
うち単位取得を伴う学部生数	7 人	7 人	7 人	7 人
うち単位取得を伴わない学部生数	30 人	30 人	30 人	30 人
うち単位取得を伴う大学院生数	0 人	0 人	0 人	0 人
うち単位取得を伴わない大学院生数	4 人	4 人	4 人	4 人
全学生数(D)	3,134 人	2,998 人	2,889 人	2,821 人
割合(C/D)	1.3 %	1.4 %	1.4 %	1.5 %

【これまでの取組】

- ① 数多くの海外大学(平成25年5月現在で76大学)と国際交流協定を締結し、教育・研究の国際化を促進している。
- ② 授業料相殺/同数学生交換プログラムによるインペリアルカレッジロンドンへの研究留学派遣者数および受入者数は、過去10年で派遣者37名、受入者36名である。
- ③ 日本の医歯学領域の世界展開力を強化するため、チュラロンコン大学、インドネシア大学、及びホーチミン医科薬科大学と連携/コンソーシアムを形成し、学生交流、国際学会、リトリート等の大学間交流を推進している。

【本構想における取組】

以下の活動を通して、積極的に増数を図る。

- 学生交換も目的に含む大学間協定の締結校の増数を継続して図る。
- 既に本学では、海外教育研究協力拠点地域の教育機関と、学生交換も目的に含む大学間協定の締結実績があるが(チリ大学、チュラロンコン大学、ガーナ大学)、本取組では、統合教育推進(仮称)に設置されるグローバルヘルス教育/海外拠点教育研究展開推進部門により海外教育研究協力拠点の戦略的増数が行われるため、同様に拠点地域の教育機関と積極的に学生交換も目的に含む大学間協定締結を図る。これにより、欧米の先進医学/健康科学/生命科学の臨床/研究留学機会のみならず、アジア・南米・アフリカなど様々な開発レベルの地域における臨床を通じたプライマリケア重視の実習やそれら地域に独特の診療の経験および研究活動が展開されることとなり、結果海外留学機会の多様化が図られる。

1. 国際化関連 (6) 大学の国際開放度

⑤混住型学生宿舎の有無【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度5月1日の数値を記入

	平成25年度	平成28年度	平成31年度	平成35年度
混住型学生宿舎に入居している外国人留学生数(A)	21 人	32 人	38 人	38 人
留学生宿舎に入居している外国人留学生数(B)	53 32 人	70 38 人	82 44 人	82 44 人
割合(A/B)	39.6 65.6 %	45.7 84.2 %	46.3 86.4 %	46.3 86.4 %
混住型宿舎に入居している日本人学生数(C)	89 人	95 人	95 人	100 人
全日本人学生数(D)	2,666 人	2,525 人	2,425 人	2,362 人
割合(C/D)	3.3 %	3.8 %	3.9 %	4.2 %

【これまでの取組】

- 本学は、留学生が入居できる宿舎として、市川国際交流会館、南行徳国際交流会館、女子寮、里見寮（男子寮）がある。うち市川国際交流会館を除いた3つは混住型学生宿舎であり、平成25年度の入居状況は、女子寮（留学生6人、日本人43人）、里見寮（留学生9人、日本人44人）南行徳国際交流会館（留学生6人、日本人2人）となっている。本学規則により市川国際交流会館の入居年限が1年のため、期限終了後は、混住型宿舎への転居を認めている。
- 本学の学士課程は、国民の健康増進に貢献する医療人を養成するという医療系大学のミッションにもとづき専門教育が日本語で行われ、日本における医療専門職の資格取得を目的としていることから、必然的に学士課程における外国人留学生の出願は極めて稀である。したがって、学士課程における人種的多様性の創出は極めて難しく、学士課程学生の国際教養、国際的視点、異文化/価値観の理解などの涵養には多大なる工夫が必要である。その工夫として以下を行っている。
 - 学生宿舎の混住化
 - 海外への留学機会の拡大/留学派遣生の増数
 - 本学の修士/博士課程に関しては174人の外国人大学院留学生が在籍している（大学院在籍学生の13.34%）。したがって、外国人大学院留学生を指導助言者として学士課程教育や、学士課程学生に対する様々なグローバル教育（入学直後の英語模擬交渉など）などへの参加機会を創出し、外国人大学院留学生と本学日本人学生（特に学士課程）との交流機会を創出している。

【本構想における取組】

上述の通り、学生宿舎の混住化は、特に医療系大学であるが故の本学学士過程における人種的多様性創出の困難性を解決に大きく貢献し、学士課程学生の国際教養/国際的視点/異文化/価値観の理解などの涵養を進めうると考える。さらに、将来のアジア、そして世界の医療分野のリーダー候補である国内外学生と、様々な国際的問題について徹底的に議論し、彼ら同志でネットワークを構築することは、将来に向けての大きな財産となると考える。実際、ハーバード大学学士課程では、これらを目的として4年間寮で生活している。本学でも、学生宿舎の混住化および上記のような外国人大学院留学生と本学日本人学生（特に学士課程）の交流機会の積極的な創出に努める。

共通観点 3 大学独自の成果指標と達成目標【3 ページ以内】

○ 意欲的かつ挑戦的な独自の定量・定性的成果指標と達成目標が、各大学の構想に応じて設定されているか。

【実績及び目標設定】

< 定量的 >

各年度大学が定める時点又は通年の数値を記入

	平成 2 5 年度 (H26. 3. 31)	平成 2 8 年度 (H29. 3. 31)	平成 3 1 年度 (H32. 3. 31)	平成 3 5 年度 (H36. 3. 31)
(学士課程) 卒業生に占める 海外経験者の割合： 医学科	33.3 (%)	36.0 (%)	42.0 (%)	50.0 (%)
歯学科	11.7 (%)	18.0 (%)	33.0 (%)	40.0 (%)
保健衛生学科	6.7 (%)	10.0 (%)	16.0 (%)	25.0 (%)
HSLP 履修者数	20 (人)	126 (人)	246 (人)	258 (人)
全大学院生に占める外国 人留学生の割合	13.3 (%)	15.0 (%)	19.0 (%)	25.0 (%)
グローバルヘルスリーダ ー養成コース(新設)履修 者数	0 (人)	0 (人)	10 20 (人)	20 38 (人)

(上記成果指標の説明と選定理由)

- ① 学士課程卒業生に占める海外経験者の割合：海外教育研究協力拠点でのボランティア、同拠点での研究実習、提携校などへの単位取得を伴う留学などを含めた海外経験者の、学士課程（医学部医学科、歯学部歯学科、医学部保健衛生学科）卒業生に占める割合。本構想における取組では、教育改革、そして拠点を活用した積極的な教育研究展開推進と、全学的に、そして人材育成/研究展開の全ステップ強化により、グローバルヘルス推進人材育成/研究展開を推進する。その最も鍵となるのが、早期（学士課程）におけるキャリアビジョン構築/ロールモデル獲得/国際的視野視点獲得とそれにもとづく内的動機付けである。そのために最も効果的であると考えるのが、早期（学士課程）の海外経験であるため、選定した。
- ② HSLP 履修者数：平成 25 年 10 月に、医療分野のグローバルリーダーに必要な資質（生命科学/医学および関連する社会科学知識とその応用力、論理的/批判的/創造的思考力、コミュニケーションスキル、リーダーシップスキルなど）の獲得/洗練とコミュニティ形成を目的とした Health Sciences Leadership Program (HSLP) を開講した。履修言語は英語のみで、少人数教育環境で、ケースメソッドを用いた問題解決型/学生参加型の教育形態をとっている。本構想における取組の目的であるグローバルヘルスに貢献する人材育成/研究展開において、特に将来グローバルヘルス推進のために様々な分野/領域/組織でリーダーとして活躍/牽引する人材育成の鍵になるプログラムであるため、選定した。
- ③ 全大学院生に占める外国人留学生の割合：本構想における取組では、アジアにおけるグローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位を確立することをゴールの一つとしている。そのために、アジア諸国からの留学生を育成することが重要であり、修士/博士課程改革と教育の国際標準化、そして海外教育研究展開拠点を通して、優秀な入学者を獲得する。したがって、成果指標に選定した。
- ④ 新設するグローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士/博士課程）履修者数：本コースでは、国内のみならずアジアを中心とした諸外国から優秀な学生を募り、将来のグローバルヘルス領域のリーダーおよび研究者を養成する。卒業生は、WHO 等の国際機関、出身国の医療行政部門、NGO/NPO、研究機関、フィールド機関、基金など、グローバルヘルス推進の中心部門に就職/活躍し、本学とのパートナーシップを強固にし相互発展に寄与する、重要な役割を担う。したがって、成果指標に選定した。

(大学名：東京医科歯科大学) (申請区分：タイプA)

共通観点 4 構想実現のための体制構築【2 ページ以内】

- 構想を推進し実現できるだけの学内体制の整備が計画されているか。環境の変化に応じ自己変革できる体制を構築できているか。また、事業終了後も継続して取り組むものとなっているか。

【本構想における取組】

本構想では、「日本が、保健医療分野において、世界規模での健康レベル向上にむけて、経験/実績を踏まえて貢献し、世界とともに発展的存続を実現するために中心となる、グローバルヘルス推進人材の育成」を目的とし、ガバナンス体制強化/教学マネジメント改革を行い、教育改革および海外拠点を活用した積極的な教育研究展開の推進の双方を進め、共通観点 1 で記した 3 つのゴールへの到着、そして本学の国際通用性・認知度・国際競争力の向上も同時に図るというものである。

その中心となる推進機構として、共通観点 4 概念図に記したように、**統合教育機構（仮称）**を新設する。

入学者募集方法、入試、学士（教養）、学士（専門）、修士/博士課程までを通した、本学教育全体の改革を要する。そのため、これらの推進の責任の所在は、本学全体の教育に関する意思決定機関である教育推進協議会、およびその委員長をつとめる教育・学生・国際交流担当理事にある。そして、これらの推進の実質的な企画/運営を担当する部署として、全学的な部局である統合教育機構（仮称）を新設する。ここに配置する部門、および他特徴を列挙する。

- ① これまで「**経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援**」の取組を進めてきた部門（グローバルキャリア支援室とグローバルキャリア支援事務室）をそれぞれ規模拡大して配置する。
- ② 教養改革および学士課程改革において積極的な反転授業の導入を行うが、そのための支援を行うアクティブラーニング推進部門を新設する。
- ③ 本学における教育改革および運営を効率的にそして効果的に進めるために、本学の既存の教育関連部局（医歯学融合教育支援センターや、**デザイン思考/イノベーション教育を担当する部門**、シミュレーション教育支援などを主たる業務とする医歯学教育システム研究センターなど）、教育メディア部門、そして教養教育・医学教育・歯学教育の具体的なカリキュラム開発/運営を行う部門などを統合教育機構（仮称）下に置き、同機構が全学的な教育開発/運営/支援および教員の教育力強化を行う体制を整える。
- ④ 統合教育機構（仮称）に教育学専門家を専任で配置し、また膨大な教育関連データを効果的に処理/利用して教育開発/運営に活かすべくデータ管理者を置き、最先端の教育理論およびエビデンスにもとづく全学的な教育開発/運営を可能にする。
- ⑤ その他、学生支援・保健管理機構、国際交流センターなどと連携する。
- ⑥ グローバルヘルス教育/海外拠点教育研究展開推進部門を配置する。本部門の教員は、後述するグローバルヘルス関連大学院分野（新設、複数）*の教員が兼任する。

・ 業務は以下の通りである。

- （グローバルヘルス教育）グローバルヘルス関連新規科目創出、グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士/博士課程）の企画/準備/開講/運営、そして社会医学系科目や教養科目支援、更にリーダー養成英語放課後プログラム HSLP（学部/大学院）の支援などのグローバルヘルス教育カリキュラム開発/実施を行う。
- （海外拠点教育研究展開推進）海外教育研究協力拠点を活用したグローバルヘルス研究展開の先導/支援により、本学の様々な分野が本学海外教育研究協力拠点において展開する教育研究活動を支援する。本学海外教育研究拠点における教育研究活動の大規模展開および学術的生産性の最大化の観点から、必要な人的リソース（統計学専門家、データ管理者、疫学専門家、医療経済学専門家、システム思考専門家など）を常勤/非常勤で配備するほか、国際交流センター、生体材料工学研究所、難治疾患研究所、生命倫理研究センター、他社会医学系分野、研究・産学連携推進機構、イノベーション教育部門、そして URA 室と連携し、支援/指導/協力を得る。また、国際交流センターと協力して、教育

（大学名：東京医科歯科大学）（申請区分：タイプ A）

研究協力展開の拠点となるフィールド機関を戦略的に選定し増数する（選定基準については共通観点2「1国際化関連（6）大学の国際開放度 ⑥海外拠点の数及び概要」に詳述した）。

※グローバルヘルス教育/海外拠点教育研究展開推進部門教員を兼ねるグローバルヘルス関連大学院分野（新設、複数）の教員/ユニットについて記す。

- （使命）グローバルヘルス教育カリキュラム開発/実施、ならびに本学海外教育研究協力拠点を活用した積極的な教育研究展開推進の支援/先導を行う。
- （構成）核となる教育研究ユニットを1つ、ハーバード等欧米トップ教育機関より誘致する。そして、他に複数のユニット/教員を募集/選考する。それぞれのユニットが一つの分野を構成し、合計として複数のグローバルヘルス関連大学院分野を新設する。
- （誘致・募集/専攻）~~学内外の見識者（産、学、ほか（国際機関勤務経験者、NGO等））よりなる諮問委員会（グローバルヘルス関連大学院分野諮問委員会（仮称））を組織し、グローバルヘルス関連大学院分野への誘致ユニット選定を行い、また他ユニット/教員の募集/選考を行うほか、選考後の教育研究指導/助言/査定を行う（誘致ユニットも対象）。~~グローバルヘルス教育カリキュラム開発/実施、ならびに本学海外教育研究協力拠点を活用した積極的な教育研究展開推進の支援/先導を行うのにふさわしい人材」という選考基準に基づき人選する。
- （募集方法）~~研究テーマベース（生活習慣病、歯周病、癌、精神疾患、母子保健、振興感染症、環境医学、保健医療システム、医療政策、医療管理などに関する国際保健問題）~~で学内外/国内外から公募する（研究費は運営費より支給）。公募に際しては、疫学、translational、臨床、社会/行動科学、看護、low-cost technology/devices、医療保険制度やシステム、医療人材教育等、様々な研究アプローチを推奨、また複数分野間コラボレーション、人文社会系分野と生命科学系分野間のコラボレーションを推奨する。

さらに、本構想における取組に関してPDCAサイクルによる評価体制を構築する。具体的には、学内外（海外も含む）有識者等による「スーパーグローバル大学創成支援事業外部評価委員会（仮称）」を組織する。クオリティマネジメントセンターが点検結果レポートをスーパーグローバル大学創成支援事業外部評価委員会に提出し、同評価委員会は教育推進協議会に、評価の検証結果にもとづく改善点の指摘を行う。教育推進協議会はこれに対して対応計画を作成して同評価委員会に提出するとともに実行する。

本事業の実施計画

① 現在の準備状況及び年度別実施計画【3 ページ以内】

【構想実施に向けた準備状況】

本構想で開始または拡大取組に関連して、以下の準備/実施体制が整っている。

- 国際保健英語模擬交渉教育資源および実施体制/実績
- HSLP 運営体制/企画実施実績
- グローバルヘルス教育研究先行機関との大学間提携実績
- 海外教育研究協力拠点保有（3 拠点）実績、同拠点での教育/研究実績、同拠点への学士課程学生派遣実績
- 英語のみで履修する大学院教育の実績
- グローバルキャリア教育および支援体制
- 語学/思考力/コミュニケーション力強化補講実施体制/実績
- 反転授業部分的導入実績（医学部医学科における Team-based learning 等）

【平成 26 年度】

- ① 統合教育機構（仮称）の組織編成を開始する。グローバルキャリア支援室、同支援事務室など、教育担当部局の組織編成を開始し、アクティブラーニング推進部門を新たに組織し、教育学専門家などの募集/選考/選定を開始する。
- ~~② グローバルヘルス関連大学院分野諮問委員会を学内外の見識者（産、学、ほか（国際機関勤務経験者、NGO 等））より組織する（業務はユニット/教員の選定/選考/査定）。~~
- ③ ②教養改革/学士課程（専門）改革における二カ国語化/反転授業の導入/少人数教育実現に関する先行取組の研究を行う。
- ④ ③大学院コースワーク充実/英語化準備を行う。

【平成 27 年度】

- ① 統合教育機構（仮称）の組織編成を進める。
- ② 統合教育機構（仮称）のグローバルヘルス教育/海外拠点教育研究展開推進部門の事務職員、統計学専門家、データ管理者、疫学専門家などの募集/選考/選定を開始する。
- ~~③ 複数のグローバルヘルス関連大学院分野を配備の教育研究ユニットの、ハーバード等欧米トップ教育機関からの誘致活動を開始する。~~
- ~~④ グローバルヘルス関連大学院分野の他ユニット/教員募集を開始する。~~
- ⑤ ④高校生対象国際保健問題英語模擬交渉を開始し、以降毎年実施する。
- ⑥ ⑤教養改革/学士課程（専門）改革における二カ国語化/反転授業の導入/少人数教育実現のための準備を進める。
- ⑦ ⑥大学院コースワーク充実/英語化を開始する。
- ⑧ ⑦大学院版 HSLP 開講にむけた準備を行う。
- ⑨ ⑧大学院グローバルヘルス関連科目増設準備を行う。
- ⑩ ⑨グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士/博士課程）新設準備を行う。
- ⑪ ⑩海外教育研究協力拠点フィールド機関を戦略的に増数する。

【平成 28 年度】

- ① 統合教育機構（仮称）の組織編成を進める。
- ② 統合教育機構（仮称）のグローバルヘルス教育/海外拠点教育研究展開推進部門の事務職員、統計学専門家、データ管理者、疫学専門家などの募集/選考/選定を進める。
- ~~③ 複数のグローバルヘルス関連大学院分野を配備の教育研究ユニットの、ハーバード等欧米トップ教育機関からの誘致活動を開始する。~~
- ~~④ グローバルヘルス関連大学院分野の他ユニット/教員募集を進める。~~
- ⑤ ④教養教育における二カ国語化/反転授業の導入/少人数教育化を開始する。

（大学名：東京医科歯科大学）（申請区分：タイプ A）

- ⑥ ⑤ 学士課程（専門）改革における反転授業の導入/少人数教育実現のための準備を進める。
- ⑦ ⑥ 学士課程グローバルヘルス関連科目増設準備を行う。
- ⑧ ⑦ 学士課程 HSLP 人数枠を拡大（22→30 人/学年）する。
- ⑨ ⑧ 大学院版 HSLP を開講する
- ⑩ ⑨ 大学院グローバルヘルス関連科目を開講する。
- ⑪ ⑩ 大学院コースワーク充実/英語化を進める。
- ⑫ ⑪ グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士/博士課程）新設準備を進める。
- ⑬ ⑫ 海外教育研究協力拠点フィールド機関を戦略的に増数する。
- ⑭ ⑬ スーパーグローバル大学創成支援事業外部評価委員会による第 1 回中間評価を行う。

【平成 29 年度】

- ① 平成 30 年度入学生の入学者選考より、入試改革の反映を開始する（国際バカロレア入学枠設置や語学力評価における TOEFL 活用（取組開始後の検討結果にもとづき）など）。
- ② 教養教育における二カ国語化/反転授業の導入/少人数教育化を拡大する。
- ③ 学士課程（専門）改革における反転授業の導入/少人数教育化を開始する。
- ④ 学士課程グローバルヘルス関連科目を開講する。
- ⑤ 学士課程 HSLP/大学院版 HSLP を継続する。
- ⑥ 大学院コースワーク充実/英語化を進める。
- ⑦ グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士/博士課程）新設準備を進める。
- ⑧ 海外教育研究協力拠点フィールド機関を戦略的に増数する。
- ⑨ ~~グローバルヘルス関連大学院分野諮問委員会を開催し、分野ユニット/教員による成果報告にもとづき、教育研究指導/助言/査定を行う。~~

【平成 30 年度】

- ① 本構想における取組目的からみた高校生対象国際保健問題英語模擬交渉の有効性の評価を行う。
- ② 教養教育における二カ国語化/反転授業の導入/少人数教育化を拡大する。
- ③ 学士課程（専門）改革における反転授業の導入/少人数教育化を拡大する。
- ④ 学士課程 HSLP/大学院版 HSLP を継続する。
- ⑤ 大学院コースワーク充実/英語化を進める。
- ⑥ グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士課程）を開講する
- ⑦ グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（博士課程）新設準備を行う。
- ⑧ 海外教育研究協力拠点フィールド機関を戦略的に増数する。
- ⑨ ~~グローバルヘルス関連大学院分野諮問委員会を開催し、分野ユニット/教員による成果報告にもとづき、教育研究指導/助言/査定を行う。~~

【平成 31 年度】

- ① 教養教育における二カ国語化/反転授業の導入/少人数教育化を拡大するとともに、本構想における取組目的からみたこれらの有効性の評価を行う。
- ② 学士課程（専門）改革における反転授業の導入/少人数教育化を拡大する。
- ③ 学士課程 HSLP/大学院版 HSLP を継続する。
- ④ 大学院コースワーク充実/英語化を進める。
- ⑤ グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士課程）を継続する。
- ⑥ グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（博士課程）新設準備を行う。
- ⑦ 海外教育研究協力拠点フィールド機関を戦略的に増数する。
- ⑧ ~~グローバルヘルス関連大学院分野諮問委員会を開催し、分野ユニット/教員による成果報告にもとづき、教育研究指導/助言/査定を行う。~~
- ⑨ ⑧ スーパーグローバル大学創成支援事業外部評価委員会による第 2 回中間評価を行う。

【平成32年度】

- ① 本構想における取組目的からみた入試改革の有効性の評価を行う。
- ② 教養教育における二カ国語化/反転授業の導入/少人数教育化を拡大する。平成31年度の評価結果に基づき適宜修正を加える。
- ③ 学士課程（専門）改革における反転授業の導入/少人数教育化を拡大するとともに、本構想における取組目的からみたこれらの有効性の評価を行う。
- ④ 学士課程 HSLP/大学院版 HSLP を継続するとともに、本構想における取組目的からみたこれらの有効性の評価を行う。
- ⑤ 大学院コースワーク充実/英語化を進める。
- ⑥ グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士課程）を継続する。
- ⑦ グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（博士課程）を開講する。
- ⑧ 海外教育研究協力拠点フィールド機関を戦略的に増数する。
- ~~⑨ グローバルヘルス関連大学院分野諮問委員会を開催し、分野ユニット/教員による成果報告にもとづき、教育研究指導/助言/査定を行う。~~

【平成33年度】

- ① 教養教育における二カ国語化/反転授業の導入/少人数教育化を拡大する。
- ② 学士課程（専門）改革における反転授業の導入/少人数教育化を拡大する。平成32年度の評価結果に基づき適宜修正を加える。
- ③ 学士課程 HSLP/大学院版 HSLP を継続する。平成32年度の評価結果に基づき適宜修正を加える。
- ④ 大学院コースワーク充実/英語化を進める。
- ⑤ グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士/博士課程）を継続するとともに、本構想における取組目的からみたこれらの有効性の評価を行う。
- ⑥ 海外教育研究協力拠点フィールド機関を戦略的に増数する。
- ~~⑦ グローバルヘルス関連大学院分野諮問委員会を開催し、分野ユニット/教員による成果報告にもとづき、教育研究指導/助言/査定を行う。~~

【平成34年度】

- ① 教養教育における二カ国語化/反転授業の導入/少人数教育化を拡大する。
- ② 学士課程（専門）改革における反転授業の導入/少人数教育化を拡大する。
- ③ 学士課程 HSLP/大学院版 HSLP を継続する。
- ④ 大学院コースワーク充実/英語化を進める。
- ⑤ グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士/博士課程）を継続する。平成33年度の評価結果に基づき適宜修正を加える。
- ⑥ 海外教育研究協力拠点フィールド機関を戦略的に増数する。
- ~~⑦ グローバルヘルス関連大学院分野諮問委員会を開催し、分野ユニット/教員による成果報告にもとづき、教育研究指導/助言/査定を行う。~~

【平成35年度】

- ① 教養教育における二カ国語化/反転授業の導入/少人数教育化を拡大する。
- ② 学士課程（専門）改革における反転授業の導入/少人数教育化を拡大する。
- ③ 学士課程 HSLP/大学院版 HSLP を継続する。
- ④ 大学院コースワーク充実/英語化を進める。
- ⑤ グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士/博士課程）を継続する。
- ⑥ 海外教育研究協力拠点フィールド機関を戦略的に増数する。
- ~~⑦ グローバルヘルス関連大学院分野諮問委員会を開催し、分野ユニット/教員による成果報告にもとづき、教育研究指導/助言/査定を行う。~~
- ⑧ ⑦ スーパーグローバル大学創成支援事業外部評価委員会による事後評価を行う。